

豊橋医療センター理念

私たちは、心のこもった
医療を提供します

豊橋医療センター基本方針

- 満足していただける医療を提供し、信頼される病院をめざします
- 基本的人権を尊重し、必要な情報を提供します
- たゆまぬ研鑽に努め、すべてにおいて良質で安全な医療を提供します
- 地域と連携し、患者さんご家族を支援します
- 安定した健全経営を維持するための努力と意識を持ち続けます



もくじ

院長のご挨拶	1
診療科紹介(耳鼻咽喉科)	2
病棟紹介①(西4病棟)	3
病棟紹介②(リハビリテーション科)	4
地域医療連携室だより	5
新任医師のご挨拶	6
外来診療担当医表	裏表紙



開院20年を迎えて

国立病院機構豊橋医療センター

院長 山下 克也



うららかな春の陽気とともに、新年度を迎えました。当院でも各部署で新しいスタッフを迎え、スタートしています。

国立病院機構（NHO）は平成16年の独立行政法人化以降、地域医療に貢献し、重症心身障害、神経・筋疾患、結核、精神医療などの不採算な分野も担い、災害医療・新興感染症で重要な役割を果たして、現在まで努力を積み重ねながら運営してきました。

今年は、豊橋医療センターが旧国立豊橋病院と旧豊橋東病院が統合して、現在のこの飯村町で活動を始めて20年になります。

豊橋医療センターは、国立病院機構140病院の一つで、豊橋市を中心とした東三河南部医療圏にて2次救急を担う公的急性期病院として、内科、外科、整形外科、脳神経外科などの急性期診療を行い、豊橋市内で豊橋市民病院の次に多い年間3600台ほどの救急車を受け入れ、緩和ケア病棟や重症心身障害者病棟なども有し、災害拠点病院としての役割を担ってきました。

この東三河地域の豊橋市でも高齢化社会・少子化、労働人口の減少が進み、2040年頃には、高齢者人口がピークを迎え、患者数や医療従事者が現在よりさらに減少することが見込まれています。2040年問題といわれるものです。

（医療を取り巻く環境は大きく変化していて、諸物価の高騰や賃上げへの対応、令和6年度の診療報酬改定などにより、病院の経営状態は、日本中の多くの病院と同様に大変厳しい状況にあります。）

現在、2040年に向けての新たな地域医療構想が国、愛知県など主導で議論が開始されています。これからの時代に向けて当院は、豊橋市民病院などと密接な連携を行って業務を行い、在宅・介護施設への橋渡しとしての機能も有する病院として地域医療に貢献していきます。

去年は、健康フェスティバル、講演会など各種行事を再開しました。今年も地域の皆さまとますます交流を深めて、当院の姿や活動を知っていただきたいと思います。

当院は、引き続き地域の公的基幹病院として、皆さまに信頼され、地域に密着し社会に貢献できる総合病院として、当院の理念である「心のこもった医療」を提供できる病院となるように職員一丸となって頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

< 耳鼻咽喉科 >

1. スタッフ

山 口 浩 志 耳鼻咽喉科医長（平成14年卒）

畔 柳 久 志 耳鼻咽喉科医師（昭和54年卒）

○診療科の特色

当科では、耳鼻咽喉科領域の全般を常勤医2名で診療しています。

外来診療は月曜日から金曜日の毎日で、年間約5000名程度の患者さんを診察し、投薬や処置などを適宜組み合わせて、疾患ごとに最良と考えられる治療を施行しています。当科に来院される患者さんの疾患の特徴として、難聴・中耳炎・めまい・アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎が多くみられます。特殊外来として、毎週木曜日に予約制の補聴器外来があり、補聴器認定医・認定補聴器技能者が診察しています。

最近の特徴として、高齢化社会を反映してか、嚥下障害の患者さんが増加傾向にあり、当科でも嚥下内視鏡検査（VE）を施行し、嚥下機能評価を行い、必要に応じて言語聴覚士（ST）に依頼して嚥下リハビリをし、嚥下機能改善に努めています。

入院診療としては、年間約500名程度の入院患者さんで、帰宅困難なめまいやステロイド点滴治療を要する突発性難聴・顔面神経麻痺、経口摂取困難のために点滴加療を要する急性炎症性疾患（急性扁桃炎・扁桃周囲炎・扁桃周囲膿瘍など）が多いです。

手術加療については、入院手術は週1回で、外来手術を含め年間約50件程度で、内視鏡下鼻副鼻腔手術や両側口蓋扁桃摘出術、ラリngoマイクロ手術や頭頸部腫瘍摘出術（顎下腺・耳下腺・甲状腺などの腫瘍）、不定期に気管切開術や頸部リンパ節生検術などを施行しています。外来手術として、鼓膜チューブ挿入術や鼻骨骨折整復術、異物摘出術（耳内・鼻内・咽頭）、唾石摘出術などがあります。

○診療科からのメッセージ

患者さんの立場を考慮した最良な診療活動を行うように日々心掛け、地域医療へさらに貢献していきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いします。

西4病棟（内科病棟）

看護師長 濱 田 真奈美

西4病棟は内科病棟で、膠原病内科や呼吸器系、心不全など内科全般の幅広い患者様が入院されています。入院患者様は発熱や体調不良を症状として受診される方が多く、その原因の検査目的や治療目的で入院されます。

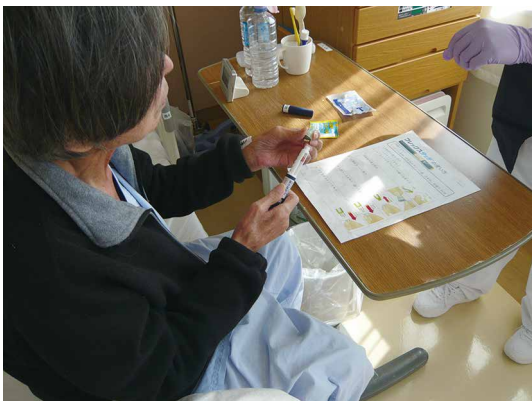
高齢の方は年齢的にも免疫力の低下や、体調を崩しやすいため、入院を契機に筋力が低下しやすくなります。そのため、治療を開始し症状が落ち着いたら、入院前の生活レベルに戻れるようにリハビリテーションの実施や、休日も看護師が病棟内で歩行訓練を行うなど、少しでも患者様が元の生活に戻れるようにサポートしています。患者様やご家族が自宅退院について不安に思うことがあれば、医療相談員（ソーシャルワーカー）が介入し、安心して自宅退院ができるよう、福祉サービスの利用や、自宅退院が困難となってしまった場合は、退院先の調整をさせていただきます。退院時に治療の継続が必要となり、治療の自己管理が必要になった場合は、患者様やご家族に退院指導を行っています。

また、西4病棟にはコロナ（COVID-19）をはじめとする感染症の患者様が入院されています。コロナは感染症2類（結核など）相当から5類（インフルエンザなど）へとなりましたが、感染対策が重要であり、スタッフ1人1人が感染対策をセルフチェックして行っています。

今後も、患者様やご家族が安心して入院生活が送れ、退院できるよう、患者様個々に合ったケアの提供を行っていきます。



病棟内リハビリ



インシュリン自己注射の指導



コロナの感染対策におけるセルフチェック

リハビリテーション科

リハビリテーション科は、理学療法部門、作業療法部門、言語聴覚療法部門の3部門で構成されています。病気や怪我等により障害を負われた患者さんの一人ひとりの状況・希望をうかがいながらプログラムを作成し、障害を可能な限り回復させるとともに残存機能を出来るだけ活かして、日常生活の自立やQOL（生活の質）の向上を目指してリハビリテーションを行っています。

より充実したリハビリテーションの提供を目指して、2025年4月から理学療法士13名、作業療法士5名、言語聴覚士3名、リハビリテーション科助手1名の22名に増員されました。

また、医師、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカーなど他職種のスタッフとカンファレンス、回診などを定期的に行い、情報共有を行いながらよりよいチーム医療となるよう努めています。



【理学療法】

理学療法では入院早期からの介入を通して基本動作（寝返り、起き上がり、座位、立ち上がり、腰掛けなど）や歩行の獲得を目指して訓練を行います。また、重症心身障がい児（者）や緩和ケア病棟でのリハビリテーションも必要に応じて行っています。



【作業療法】

作業療法では、骨折や麻痺、もしくは高次脳機能障害など、障害により失われたり低下した能力を残っている能力で補ったり、潜在している能力を引き出す練習を行い、日常生活に関わる能力の維持、向上を目指します。



【言語聴覚療法】

言語聴覚療法では、話す・聴く・読む・書くといったコミュニケーション障害や、高次脳機能障害、嚥下機能障害に対する機能回復を行っており、脳血管疾患が主な対象疾患となっています。また、入院患者さんの高齢化にともない、各診療科からの摂食・嚥下訓練の依頼も増えています。

地域医療連携室だより

当院は急性期総合病院として、高度・専門・救急医療を行い患者さんへ自分の状態にあった医療を提供しています。「地域医療連携室」は地域の医療機関と情報共有や医療資源の有効活用を行い、患者さんが適切な医療を受け、そして安全、安心な生活が過ごせるようにサポートする部署です。

地域連携室の役割

地域医療連携室の役割は、「病診連携」（前方支援）と「医療相談」（後方支援）の二つに分けられます。「病診連携（前方支援）」とは、地域の医療機関と連携し、患者さんが受診・入院するために行う連携のことです。また「医療相談（後方支援）」とは、患者さんの退院後の生活を過ごしやすくするために行う退院調整や連携のことです。

主な業務

地域の医療機関から紹介された患者様の予約受付を行う。

紹介元への情報提供を行う。

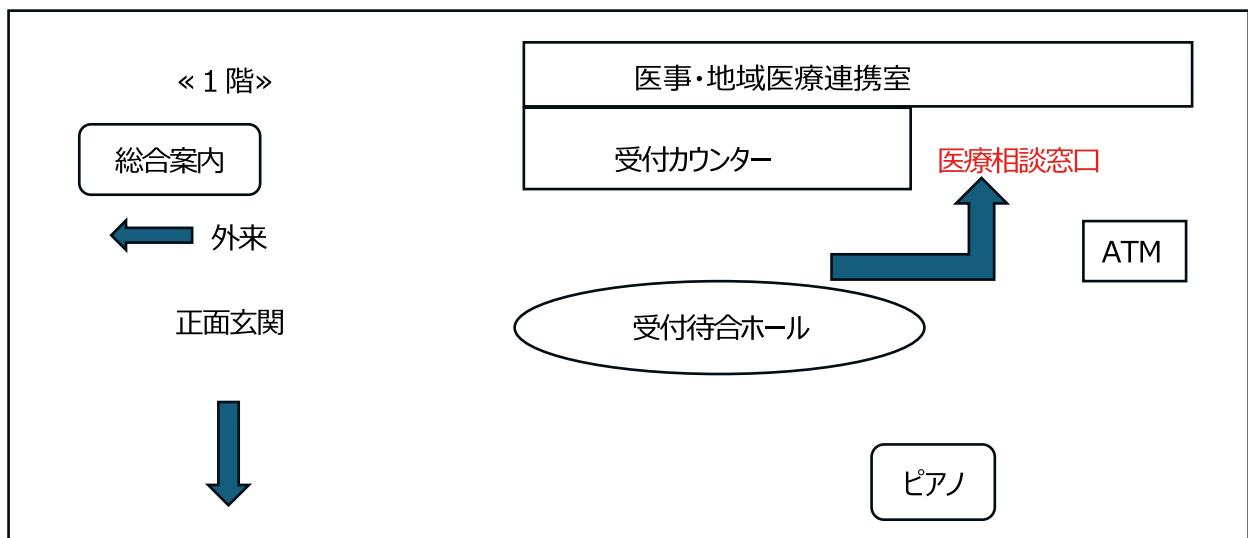
他病院への紹介・転院依頼を行う。

医療相談の受付

地域ネットワーク（共同利用システムを活用した共同診療や大型医療機器の利用）

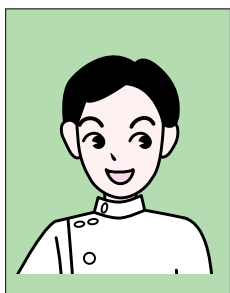
地域の医療機関に關対する情報提供（病診連携カンファランスの開催など）

これらの役割を通じて、患者さんが必要な医療や福祉サービスを適切に受けられるよう支援し、地域の医療体制の充実に貢献しています。何か他に詳しく知りたい点があれば、お気軽にお尋ねください。



医療相談窓口 平日 8:30～17:15

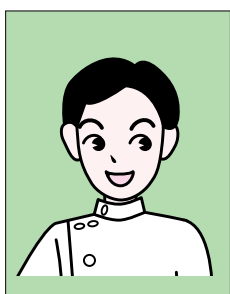
新任医師のご挨拶



整形外科

久留宮 悠 暉

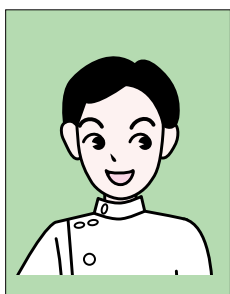
名市大を卒業して整形外科4年目になります、久留宮 悠暉と申します。以前には豊川市民病院にも勤務していたこともあり、再び東三河に少しでも貢献できるよう精進します。よろしくお願い致します。



消化器内科

大 森 康 司

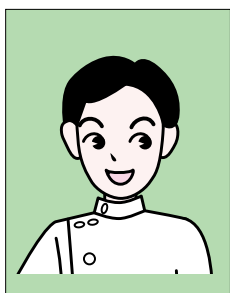
初めまして。消化器内科の大森康司と申します。
内視鏡検査や消化器疾患などで、地域に貢献できればと思います。
バンド活動が趣味で、月に1回くらいライブに出ています。これからもよろしくお願い致します。



脳神経外科

花 木 建 貴

4月より着任しました脳神経外科の花木です。
地域の医療に貢献できるよう努めてまいります。
よろしくお願い致します。



研 修 医

梶 山 勇 人

できることをたくさん増やして、なんでもできる医師になります。
まだまだ未熟物ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



外来診療担当医表

独立行政法人
国立病院機構豊橋医療センター

令和7年5月1日～

※受付時間は、8：30～11：00（再診予約専用電話 0532-62-1087 平日13:00～15:00） 電 話：0532-62-0301

[illegible]